

# 競 技 注 意 事 項

1. 本大会は2026年度日本陸上競技連盟競技規則および本大会要項に準ずるが、児童・生徒である年齢を考慮のもとに競技を進行する。なお、競技用靴については、審判長および競技役員はいつでもシューズチェックをすることができ、競技者はその指示に従わなければならない。  
ただし、小学生は、競技規則TR5.2及び競技用靴に関する規程の適用外とする。
2. 場内司令について  
特に認めた監督・コーチ・報道・選手・補助員・競技役員以外は、競技場に入ってはならない。  
競技者の本部前の通行は厳禁とする。
3. 練習について
  - ①練習は、雨天練習場または公園内で行うこと。なお、雨天練習場を使用する際は、走る方向を一方通行とし、危険防止に努めること。(補助競技場は改修工事のため使用できない)  
また、競技場バックストレートを次の時間帯のみ練習に開放する。…… 11:40~14:40  
バックストレートを練習で利用する際は、バックスタンド前の跳躍競技やフィールド内の投てき競技の動向に十分注意すること。
  - ②跳躍練習及び投てき練習は、競技開始前に、各競技場所において審判員の指示により行なうこと。
  - ③競技開始前 7:45~8:40の間、競技場を開放する。
4. 招集について
  - ①トラック競技の招集はメイン競技場第4ゲート付近の場外で行う。  
フィールド競技は現地(競技場所)とする。  
選手は、招集完了10分前には待機し、係よりアスリートビブスやスパイクの点検・確認を受けること。
  - ②各種目の招集完了時刻は、当該種目の競技開始時刻を基準とする。  
招集開始時刻及び完了時刻は競技日程表に記載している。
  - ③招集時刻に遅れた場合、当該種目を欠場したものとして処理する。
  - ④代理人による招集は一切認めない。但し、2種目以上を同時刻に兼ねている選手やその種目にやむを得ず欠場するときは、その旨を現地の競技者係に申し出ること。  
リレーメンバー(全員)は招集所内に待機し、点呼を受けること。
5. アスリートビブスは、ユニホームの胸と背に確実につけること。  
ただし、跳躍種目はこの限りでない。
6. 走高跳のバーの上げ方については、審判員の指示により行う。
7. 試技順はプログラム記載の順とする。
8. 小学生の競技について
  - ①スタートについて  
同じ競技者が2回不正スタートをしたときは、競技者の意思により走ることはできるが、タイムの計測は行わない。
  - ②80mハードルの規定

スタートから第1ハードル	高さ	インターバル	台数	最終ハードルからゴール
13m	70cm	7m	9台	11m
  - ③800mはオープンレーンで実施する。
  - ④リレーオーダーはプログラムに記載されている選手以外は認めない。  
マークのテープは各チームで準備したものを使用すること。また使用後のテープは必ずそのチームの選手が外すこと。
  - ⑤リレー競走に出場する選手のユニフォームは、同じチームであることが分かれば、ユニフォームの形式は問わない。デザインや配色が同一であればよい。
  - ⑥男女混合4×100mRは男女各2名から編成され、走順は自由とする。  
(補欠についても男女各1名ずつとする)  
リレーオーダー用紙は招集完了時刻の1時間前までに情報処理室に提出すること。  
オーダー用紙は受付の時に受取る事。

- ⑦走高跳の跳躍方法は、はさみ跳びとする。なお、マットへの着地は足裏からとし、背・腰等からの着地は無効試技とする。
- ⑧ジャベリックボール投は主催者が用意した器具を使用する。  
やり投に準じて行うが、助走距離は15m以内とし、距離の計測は器具が最初に地面についた地点から計測する。  
試技の際には、ボール本体を持ち、オーバーハンドスローで投げることにする。羽を持ったの投てき、回転投げを禁止する。

9. チーム控え場所の清掃は、監督・顧問・キャプテンの指示により確実にこなうこと。

各チーム（学校）で出したゴミは、確実に持ち帰ること。

10. その他

- ①個人情報の取り扱いについて  
本大会に関して寄せられた個人情報は、本大会の目的以外に使用しません。
- ②応急処置を要する場合やその他健康上の問題が生じた場合は、競技役員に申し出ること。  
なお、競技場内で起こった傷病については本部で応急処置は行うが、その後については、本人（保護者・申し込み責任者）の責任において処置すること。
- ③盗難防止のため、貴重品は各チーム・各自で保管する。盗難・置き引きには十分注意すること。